

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	2008年9月9日
調査実施の時間	開始10時00分～終了15時30分

訪問先事業所名 (都道府県)	恵光園グループホーム さくらの里 (鹿児島県)
-------------------	----------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名	石松 成子
	氏名	中村 朋美
事業所側対応者	職名	管理者
	氏名	山口 知子
	ヒアリングを行った職員数	3名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4671400143号		
法人名	社会福祉法人 長和会		
事業所名	恵光園グループホーム さくらの里		
所在地	鹿児島県垂水市本城217番地 (電話) 0994-32-1881		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年9月9日	評価確定日	

【情報提供票より】 (20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月12日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	13人	常勤	13人, 非常勤 0人, 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	木造防火サイディング貼り 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200円	昼食 290円
	夕食	290円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	4	要介護2	6		
要介護3	6	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 84.6歳	最低	71歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桑波田診療所・垂水温泉病院・ふくまる皮フ科クリニック・川畑歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

全ての利用者にベッドからでも桜を見せてあげたいと、敷地に多くの桜の木が植えてあり、花見を通じて地域住民との交流も図られている。法人合同で研修の実施やサービスの質の向上のために具体的な委員会を立ち上げ、業務改善や食事・ケアプランなど工夫が見られる。情報を継続して記録し、力量を活かした達成可能な分かりやすい目標を設定して、理念に沿った質の高いサービスを提供して入居者の暮らしを支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	同業者との交流については、市担当者との相談しながら進め、改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	管理者・職員は自己評価について、共に話し合い実施して意識改革を行い、サービスの質の向上に活かす取り組みをしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議を定期的に行い、サービスの現状やホームの取り組み内容など報告し、多くの意見を引き出している。出された意見については検討を行って、サービスの向上につなげるよう取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	面会時に相談・要望等を聞きミーティングで話し合っており対応している。運営推進会議に多くの家族も参加し、意見や要望を聞き運営に反映させるよう取り組んでいる。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人主催の運動会や夏祭りに地域住民を招待したり、小・中・高校生の体験学習やボランティア等受け入れ、地域住民との交流を図っている。地域住民に災害時の協力を依頼している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの個性と尊厳を大切にしたい理念である。地域密着型サービスとして地域の中での役割を目指した事業所独自の理念としての見直しはこれからである。	○	今までの理念に加えて、地域密着型サービスとしての役割を目指した事業所独自の理念の検討が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のスタッフ会議で理念を唱和し共有している。管理者・職員は共に理念を意識して話し合い、毎日のケアに取り組んでいる		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人主催の運動会や夏祭りに地域住民を招待したり、小・中・高校生の体験学習やボランティア等を受け入れ、地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は自己評価について共に話し合っ実施し、意識改革を行いサービスの質の向上に活かす取り組みをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、利用者のサービスの現状や事業所の取り組み内容等を報告し、多くの意見を引き出すよう努め、サービスの向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営やサービスの課題について市担当者に報告したり相談等をしている。運営推進会議の時にも適切な助言をもらったりして、サービスの質の向上に共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを発行し、利用者の暮らしぶりなど報告している。健康状態についてはそのつど電話で報告し、職員紹介や金銭管理などは面会時に報告し、確認を受けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、相談や要望等を聞き、ミーティングで話し合い対応している。家族会を行って要望や意見を出してもらっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は、異動を行う場合は適材適所を心がけ、離職や異動を最小限になるよう努め、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内の研修を開催し職員の学びの機会を確保している。資格取得も法人全体で勉強会を行うなど、積極的に職員の資質向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や職員間の相互訪問の活動はこれからである。	○	地域の同業者と交流の機会を持ち、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質の向上に活かすことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があったら、施設や病院・自宅に面談に行き見学を勧めている。それぞれの入居者に寄り添ったケアを行い、徐々になじめるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることを大切にして、家事や農作業などの経験を毎日の暮らしの中で発揮してもらっている。保存食作りなど教えてもらうことが多く、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントによる思いや意向の把握に加え、定期的なフェースシートの記入や個人用ノートなど工夫し、時間をかけて希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から機会を捉えて、希望や意見を聞き、主治医の意見等参考にしてアセスメントしている。担当者会議を開催し、職員と話し合っ、具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン経過状況記録等を基にカンファレンスを行い、期間に応じて見直しを行っている。状態に変化が見られた時や家族からの要望があれば随時、計画を見直している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と相談しながら、通院送迎や受診介助・外出介助等を支援している。一時帰宅での利用者と家族の様子を写真や文章で記録し、家族との思い出づくりを支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。受診や通院は家族と相談し、希望に応じて支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期に向けたホームとしての対応について説明している。状態変化を見ながら家族や主治医・職員等関係者と話し合っ、対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月、研修や自己評価を実施し、入居者の尊厳を大切にするケアを目指して法人全体で取り組んでいる。記録等についても取り扱いに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の今までの暮らし方を聞きとり、毎日の心身の状態を考慮しながら、希望に添った自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や料理の下ごしらえ・味付け・片付けなど利用者と職員が一緒に行っている。また郷土料理や手作りおやつなどを作ったり、庭で食べるなど雰囲気づくりも工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、希望やタイミングにあわせて入浴を支援している。ホームでの足湯のほか、出向いての足湯の支援もしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時や面会時に本人や家族から情報を得て、菜園や花壇の手入れ・洗濯物干しなど役割を持ってもらっている。夏祭りや運動会への参加などを楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺の散歩や買い物・ドライブ、また季節の花見やぶどう狩りなど戸外に出る機会を作って支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者と職員は入居者の様子を把握しており、安全面に気を配り、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人施設との合同の訓練のほか、ホーム主体の避難訓練も実施している。災害に備え食料品等も準備しており、近隣の住民にも災害時の協力を依頼している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量はチェックし記録している。法人施設の栄養士に献立について指導を受け、栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所や食堂のテーブル・ソファアール・畳コーナーが居心地よく配置され、季節の花をいけたり、生活感や季節感を取り入れ、入居者が落ち着いて暮らせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた時計や自分の作品・家族の写真・家族の書いた絵などを飾り、入居者が安心して過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。